

事例 27

ふるさと村の田んぼで米づくり

DATA
 場所：宮城県柴田郡川崎町国営みちのくの湖畔公園
 国営みちのくの湖畔公園工事業所 東リゾート相談室 [TEL (0224)-84-6211]
 実施者：財団法人公園緑地管理財団みちのく公園管理センター
 参加者：川崎町の小学校(川崎町立第二小)5年生 14名、先生 2名
 実施日：平成13年5月14日(田植え)、7月6日(草取り)、10月(稲刈り)
 学習時間：各回2時間

関係する分野
 環境 交通 社会 地域 歴史 福祉 健康

背景

子供たちに米づくりの方法や米づくりの大変さや大切さを感じてもらい、稲を育てる喜びを知ってもらうため、みちのく公園のふるさと村の田んぼで米づくりの体験学習を実施しています。ふるさと村は、東北地方の古民家を移築復元し、農村風景を作り出している場所です。田んぼの周りには、土掘りの水路やガマの茂るぬるめなど、現在では少なくなった場所が再現され、昔ながらの米づくりを体験できます。

内容

川崎町にある川崎町立第二小学校の5年生14名が、5月の田植え、6月の草取り、10月の稲刈りまで、米づくりの一連の作業を行っています。また、刈り取った稲は、昔ながらの脱穀機で脱穀し、お餅を作って食べ収穫の喜びを共有します。



初めての田植えはよく話を聞いてから



裸足で土を感じながらの田植え

成果

暑い中での草取りの大変さや、元気に育つ稲の生命力を通じて、米づくりの大変さそして喜びを子供たちは感じているようです。なにより、米を育てる人や自然への感謝の気持ちが子供たちの中で育っていきました。また、別の授業で体験した炭焼きと、草取りの際にふるさと村で行った炭俵づくりが結びついて、昔のひとの知恵や仕事を知る機会となりました。

参加者の声

「稲が大きくなっている。すごーい。」
 「株の間とか、見えないところに雑草は生えているんだね。」
 「(炭俵づくりで)昔の人は夜も働いていたなんて、いつゆっくりするんだらう。」



体験学習最初の仕事は5月の田植え



草刈りは地道だが大切な仕事



黄金色の稲穂をひとつひとつ刈り取っていく



みんなが作った米で餅つき。これぞ収穫の喜び



小原恵梨菜さん



5年 名前 森岡大晴くん

ポイント

- 田植えから管理、収穫まで、米づくりの一連の作業を体験してもらいます。
- 体験を通して食べ物大切さを知ってもらいます。
- 1年間を通した継続的な体験学習を通して、仕事の大変さや、喜びを実感してもらいます。
- 古民家での暮らしや炭俵づくりなどを学び、昔の生活のようすを知ってもらい、知恵や文化を体験的に学習します。

次のステップに向けて

●ふるさと村は、東北地方の暮らし文化を伝えるために、現在5棟の民家で「しごと」「まつり」「すまい」「民芸」「伝承」をテーマとした展示を行っています。この場所をさらに活かした学習とするために、民具を利用した仕事の体験や古民家での暮らしの体験など、米づくりと絡めた総合的な体験学習を進め、東北地方の歴史、風土、文化や、先人の知恵など、学習が広がります。